

広汎性発達障害児における 絵画配列課題による心的発達の評価に関する研究

A Study on the Evaluation of Mental Development by Picture Arrangement Task
for Children with PDD

○和田 美代子・竹内 康二

(明星大学人文学研究科) (明星大学人文学部)

Miyoko WADA & Koji TAKEUCHI

(Graduate School of Humanities, Meisei University) (Department of Psychology, Meisei University)

keywords: Picture Arrangement Task, Grasp the Situation

I. 問題と目的

これまでの自閉症の研究や、本人の自伝などで、自閉症児は社会性の障害があり、周囲の状況や相手の気持ちを理解することに困難を示し、そのことによって、対人関係のトラブルが多いことが報告されている(熊谷,2006)。よって本研究の目的は、自閉症児の状況理解の困難について検討し、その解決のための指導方法の開発を行うこととした。

II. 方法

【参加児】広汎性発達障害と診断された5歳の女児(以下A児)と、アスペルガー症候群と診断された6歳の男児(以下B児)。A児は WPPSI の結果 VIQ89、PIQ74、FIQ77 で、B児は WISC-Ⅲの結果 VIQ125、PIQ99、FIQ114であった。【セッティング】M大学のプレイルームにて、各参加児について個別に行われた。参加児と実験者は、机を挟んで向かい合って着席した。【手続き】①プレテスト：参加児の状況理解を困難にしている要因をアセスメントするために、WISC-Ⅲの絵画配列課題を行った。実験者は、3～5枚からなる短い物語が描かれた絵カードを決められた順序で参加児に呈示し、「お話を作って並べ替えてください」と教示した。参加児がカードを話の順番になるように並べ終わったら、「どんなお話ですか」と聞き、話の内容を口頭で説明させた。カードの順序が正しければ正答とし、連続して3問失敗したら、テストを中止した。②トレーニング：プレテストで正答できなかった問題の特徴を抽出し、単純化・明確化した課題を作成し、的確に正反応が生起するまで訓練を実施した。③ポストテスト：プレテストと同様の手続きを行った。

III. 結果と考察

A児・B児の結果をそれぞれTable1,2に示した。プレテストの結果から、A児は心情理解を要さない単なる行動についての問題は、カードを見て物語の前後関係を理解することは可能であると考えられた。しかし、カードの登場人物の心情を理解してカードの順番を考える必要のある問題は正答できておらず、場面にあった登場人物の心情を考えることが苦手であると考えられた。そこで、心情把握を促進するトレーニング課題を作成し、正反応が生起するまで繰り返し実施した。トレーニング後、再びWISC-Ⅲの絵画配列課題を実施したところ、プレテスト

で不正解であったWISC-Ⅲ問題2及び問題5に正答した。また、B児はカードの枚数が3～4枚の問題は正答できたが、カード枚数が5枚の問題が全て不正解であった。このことから、情報量が増えるとそれを処理しきれなくなることが考えられた。そこでカードの枚数の多さに慣れるため、比較的ストーリーの推測が容易な課題を作成し、カード枚数を3枚、4枚、5枚と増やしていくトレーニングを実施した。その後、再びWISC-Ⅲの絵画配列課題を実施したところ、プレテストで不正解であったWISC-Ⅲ問題6、問題10、及び問題11に正答した。

Table 1 A児の結果

プレテスト			トレーニング1回目			トレーニング2回目			ポストテスト		
WISC-Ⅲ	枚数	正誤	課題	枚数	正誤	課題	枚数	正誤	WISC-Ⅲ	枚数	正誤
1 自動販売機	3	○	アイス	3	×						
			バナナ	3	○	バナナ	3	○			
2 ピクニック	3	×	猫	3	○	猫	3	○	2 ピクニック	3	○
			お弁当	3	○	お弁当	3	○			
3 遅刻	4	○									
4 相撲	4	○									
5 小川	4	×	サンドイッチ	4	×	サンドイッチ	4	○	5 小川	4	○
						小川2	4	○			
6 動物とポート	5	×									
7 鴨の行進	4	×									

Table 2 B児の結果

プレテスト			トレーニング1回目			トレーニング2回目			トレーニング3回目			ポストテスト		
WISC-Ⅲ	枚数	正誤	課題	枚数	正誤	課題	枚数	正誤	課題	枚数	正誤	WISC-Ⅲ	枚数	正誤
1 自動販売機	3	○	アイス	3	○				アイス	3	○			
2 ピクニック	3	○	猫	3	○				猫	3	○			
3 遅刻	4	○												
4 相撲	4	○												
5 小川	4	○	サンドイッチ	4	○				サンドイッチ	4	○			
6 動物とポート	5	×	うさぎとかめ	5	○	うさぎとかめ	5	○	うさぎとかめ	5	○	6 動物とポート	5	○
			飛び込み	5	×	飛び込み	5	○	飛び込み	5	○			
7 鴨の行進	4	○												
8 猫とミルク	4	○												
9 ベンチ	5	×										9 ベンチ	5	×
10 魚釣り	5	×										10 魚釣り	5	○
11 タ立	5	×										11 タ立	5	○

以上のトレーニングにより、参加児の状況理解が促進され、その結果、プレテストで正答できなかった問題が、ポストテストにおいてはできるようになり、状況理解が般化されたと考えられた。しかし、今回の研究によって絵画の中の状況の理解は深まったと考えられるが、現実の生活場面は学校生活や家庭の中であり、そこでの状況理解の般化までは検討できなかった。今後の課題として、現実場面での状況を含んだ絵画配列、プレイルームでのシミュレーション、現実場面での応用へと繋げていく必要があると考えられる。

V. 引用文献

熊谷高幸 (2006). 自閉症: 私とあなたが成り立つまで.
ミネルバ書房